

2019年5月22日（水）

堺市市長選挙立候補者
様

特定非営利活動法人（NPO 法人）
えんばわめんと堺/ES
代表理事 北野真由美

公開質問状

いじめ・虐待・体罰などで子どもの命が奪われる事件が後を絶ちません。えんばわめんと堺/ESでは、堺市ですべての子どもが安心して自信をもって自由に生きていける地域づくりをベースに、子どももおとなもお互いが大切にされる地域社会への実現をめざし1997年より20年以上活動しております。今年は「子ども権利条約」が日本で批准されて25年を迎えます。堺市におきましても、これまで以上に子どもの人権が守られ、子どもの最善の利益を図るための取り組みは必要であると考えています。

来たる堺市市長選挙に先立ちまして、子ども支援・教育施策について、以下の通り、公開質問状を送付いたします。いただいたご回答は、原文をそのままインターネット・SNS上で公開するとともに、多くの方に見ていただけるよう発信する予定です。市長候補予定者の方々が、子ども支援・教育施策について、どのようにお考えいただいているかを私たち市民の判断材料の一つをして提供できればと考えています。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

- 回答期限：5月27日（月）24：00

投票日が迫っていますので出来るだけ早く回答をお願いします。

随時UPしていきます

- 回答様式：メールもしくはFAX

- 回答先：NPO法人えんばわめんと堺/ES 事務局

メールアドレス：empowerment@lily.ocn.ne.jp

FAX：072-230-5589

お名前： _____

- 1、堺市では、子どもの安全を守る主な取り組みの事業として、いじめ・虐待等子どもの人権侵害に対する救済や防止（CAP 子どもへのあらゆる暴力防止）プログラムの実施などが行なわれています。地域のおとなや専門家が子どもの声を聴き、子ども自身が人権意識を向上させることへとつながる関わりが大事だと考えています。

今後も継続して子どもの人権擁護のための事業（CAP プログラム実施も含む）は必要だと思いますか？お考えをお聞かせください。

- 2、子どもの権利条約が日本で批准され25年になります。しかし、子どもはもとより、おとなである市民に周知されていないことについて、大変危機感を募らせております。

（国連から勧告も受けております）虐待・体罰、いじめ、自死などの問題が日々クローズアップされ、社会の中で子どもが生きづらい状況になっていることは明らかであり、堺市も同様です。政局に左右されず、教育と福祉の壁を越えて、安定的・継続的な子ども施策を続けていくために、国内100以上の自治体が「子ども条例」を作っています。これはユニセフが施行している「子どもにやさしいまち」認証制度とリンクした取り組みです。

子どもの参加を促し、子どもが意見を表明できる「子ども会議」を開催する等の「子ども条例」の制定が堺市でも必要だと考えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

- 3、今、社会では、セクシュアルハラスメント・性虐待・性暴力等の問題が起き、性に関する情報が氾濫している中で、性にまつわる多くの課題が低年齢化しています。子どもの多様な家庭環境の中で、性の健康教育について学ぶ機会が必要と考えます。

子どもの性（リプロダクション・生殖・命・性の多様性・性の関係性）の育みや健康教育について、地域や校区で子どもに関わるおとなや教育の場で取り組むことについてどう思われますか？

- 4、さまざまな障がいを持った子ども、さまざまな家庭環境や経済状況の子ども、外国にルーツを持つ子ども・・・など、大阪府では多様な社会的背景や特性を持つ子どもたちが生まれ育ち、その課題も多いです。特にお聞きしたいのは、障がいのある子どもたちのことです。特別支援教育に移行して以来、支援学級から支援学校のニーズが高く、大阪府・市では共に育つインクルーシブ教育システムを掲げていますが、堺市ではそうではない現状があると考えています。

障がいのある子どもたちが、地域コミュニティや学校、放課後の居場所で「一緒に学ぶ」「一緒に育つ」ことについてどう考えますか？

- 5、市長として、一番力を入れたいと考える子ども施策は何か、具体的にお聞かせ下さい。